



共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第38号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時~4時迄

ICTの活用と学校教育 狭山市教育委員会

携帯電話やインターネットが一般的なものになったのはおよそ30年前、スマートフォンが普及し始めたのは15年ほど前です。今では子供でも、手のひらの上のスマートフォンであふれるほどの情報を入手できるようになりました。

幼いころからスマートフォンが身近にあり、それを使いこなすことができる子供たちにこれから必要なICTの活用とはいったいどんなものなのでしょう。それは、ICT機器を使いこなすスキルを身に着けたうえで、様々な情報に触れながら自分自身の考えを持ち、他者と関わりながら、学びを深めていく力を高めること、いわゆる「主体的、対話的で深い学び」をICTを効果的に活用し、実践していくことです。

市内の公立小中学校では、令和6年度から電子黒板の導入が進み、令和7年度までに小学校4~6年生、中

学校教育部次長兼教育指導課長 利根川 浩子

学校の全学年の各教室に電子黒板を設置しています。児童生徒に貸与されている1人1台端末に加え、学校のICT機器は、子供たちのこれからの人生を豊かにする学びにつながるよう、各学校の様々な場面で効果的な活用の研究と実践が進んでいます。



これまでもSSVCの皆様には各学校で様々なご支援をいただき、子供たちの学びと成長に大きく貢献していただいております。使う道具が変化しても、子供たちの明るい未来を目指して教育に取り組む姿勢はどの学校も変わっておりません。これからも狭山市の子供たちのために変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

SSVCとの連携強化に向けて

狭山市内では全小中学校に学校運営協議会が設置されて、コミュニティスクールとなりましたが、地域学校協働活動(SSVC)については、地域によってかなりの温度差があるように感じられます。これまで、学校応援団とSSVCが並立して、それぞれが学校からの支援要請を受ける形で活動して来ましたが、地域の人たちが主体性を持って、地域の子ども達をどう育てたいかを議論し、具体的な活動については先生方と地域の大人達が協力し合って実行して行くことが期待されていると思っています。一部の学校(地域)では、SSVC推進員の方とSSVCのコーディネーターが連携して、一体的な運用が始まっていると聞いていますが、当面は試行錯誤しながら「ありたい姿」を探って行くようです。

SSVC 事務局長 山田 恵一

SSVCの活動は、地域が主体となって推進して行くこととされていますが、地域の人材には限りがあります。また、社会的にはボランティア活動に参加する時間的余裕がない方が多くなっています。都合がつく時にスポットで参加できるようなボランティア活動のやり方を工夫する必要があるのではないのでしょうか。私たちSSVCは、狭山市全域をカバーする人材バンクを持っていますので、学習支援以外の活動でも、必要に応じて幅広く声を掛けて活動に参加してもらうことが可能です。年々高齢化が進むことで、自宅から遠い地域・学校に出向くことが難しくなっている方もおられますが、無理のない範囲で参加することが、私たち自身の生き甲斐にもつながります。機会がありましたら、積極的に参加して行きましょう。

校長先生 こんにちは 37

“ななめ”の関係を生かす

狭山市立入間野中学校 校長 熊谷 雅人

日頃より、SSVCの方々をはじめ地域の皆様方には本校の教育活動に対するご理解・ご協力、そして温かなご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、子供たちの健全育成を図るには、“ななめ”の関係を生かすことが有効だと言われます。

親子や生徒と教師の関係は“縦”の関係、子供とその友達との関係は“横”の関係とされ、いずれの関係も関わりが深く、時に直接的な利害関係も生じる関係性です。一方、子供にとって地域やご親戚等の方は“ななめ”の関係です。この“ななめ”の関係は、適度な距離感があって直接的な利害関係がない分、子供たちにとって安心感が持てる人間関係です。

こうした“ななめ”の関係にある大人たちのサポートは、子供たちに自己肯定感を育み、同時にコミュニ

ケーション能力を高めることにもつながると言われています。

本校において、そうした“ななめ”の関係を生かして生徒たちの支援にあたっているのがSSVCの皆様方です。さわやか相談室との連携・協働により、個別支援を必要とする生徒たちを日々支え、学力の向上のみならず生徒たちの居場所づくりにもご尽力いただいております。教職員や相談員さんと歩調を合わせながら、学習支援はもとより、ときに相談やたわいもない会話などを通じて一人一人の生徒に寄り添っていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、誰一人取り残すことなく、すべての生徒が生き生きと輝くことのできる入間野中学校であり続けるために、SSVCの方々のお力添えをお願いいたします。



全国的にも珍しいと評価の学校支援活動の由来を探る ⑨

～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～ 前SSVCセンター長 諸井 寿夫

SSVCは、設立して20年を迎えようとしており、多くの皆様のお陰で全国的にも評価をいただいています。

活動の展開に当たって、多くの課題もあり、この解決に向けて行政のご協力が絶対条件です。

また最も重要な支援員拡充において、多くの市民の皆様は情報発信が必要で、「広報さやま」は、ベストなメディアで、頻繁にSSVCの意義、活動状況を掲載、ある時には、市長との新春座談会、また表紙にも飾ってもらいました。この掲載についても、SSVC所管の社会教育課の皆様には、広報との調整など真摯に多くのご配慮を頂きました。広報さやま以外にも、全国誌新聞、県の教育雑誌など多くの場面でSSVCの活動の記事をご覧になった方から、うれしいコメントを多々頂きました。

教育現場には、小中学校の入学式を終え少し落ち着いた頃、新しく着任された校長先生を訪問してSSVCをPRすることが慣例で、どこの校長室にも「胡蝶蘭」が飾られ、いろんな鉢植え眺めることができこれまた訪問の楽しみです。この就任をお祝いするに相応

しい品格ある鉢が、気持ち晴れやかな雰囲気を出しています。

このタイミングで各学校を訪問してこの緊張ムードを味わえるのは、我々の特権でもあるかと思います。

また本庁舎5階の教育委員会を訪れる機会も多々あり、カウンター越しの遠方から先にお声をかけいただき、その時職員の皆さんも立ち上がってご挨拶を頂きとても恐縮でした。SSVCがそれだけ評価いただいているなど勝手に思い気持ちも晴れやかになる瞬間でした。

議員の皆さんにも関心を持っていただきましたが、議会の会議室にて、他県の議員さんをお迎えして一緒にご説明の場面もありました。またSSVC事務所に市議会議員のご視察もあり、概要をご説明、うれしい評価を頂きました。

今回は、SSVCの活動に伴い、行政との連携、ご協力をいただいているその場面の一例の報告です。



SSVCをご視察の市議会議員（現在県議）と教育委員会

「共に学ぶ場」：学習支援員養成セミナーの紹介

広報グループ 木村 陽一

現代社会の大きな変動に伴い、教育現場は、固定知識の教授だけでなく、自ら考え問題を解決する能力や柔軟性を育む転換期にあります。この背景のもと、現在、SSVCは「学習支援員養成セミナー2025」を開催しています。

目的・趣旨

本セミナーは、「共に学ぶ場」として、学習支援員が古い概念にとらわれず、アンラーニング（学びほぐし）を継続し、子どもたちの多様なニーズに応えることを趣旨とします。

主な目的は、支援が必要な子どもの現状、その教育、不登校への対応といった新しい知識・理解を深めることです。また、学習支援の現状と学校教育の目的の理解を深め、学習支援員としての活動内容、心構え、必要なスキルを習得し、活動のヒントを得ることを課題としています。

カリキュラム（主な内容）

内容は以下の通りです。

1. 新しい学習指導要領
2. 新しい社会（インクルーシブ教育など多様性の課題を含む）
3. 子どもの心理
4. 各教科の指導法

5. 事例のケーススタディ

6. 学校現場の見学

受講者の声と今後の展望

受講者からは、セミナーの高い価値が評価され、「子どもたち一人ひとりに寄り添うことの大切さ」や「先生との良好な関係構築の重要性」など、実践的な心構えに関する学びが好評でした。また、現場見学による支援への意識向上や、参加者同士の交流の有意義さも挙げられました。

一方で、SSVCの活動内容や具体的な支援事例、個々の学校での支援の違いに関する情報提供を求める要望も寄せられています。

これらの声を踏まえ、本セミナーは、受講生の多様な視点や経験を共有する場として継続的な開催が期待されています。次期開催には、既にボランティアとして参加されている方も含め、多くの方々の受講と学習支援活動への参加をお願いいたします。

（右：2025年チラシ）



令和7年度第1回全体CN会議

人材グループ 有田 茂

令和7年度の第1回全体CN会議を7/14(月)13:30より中央公民館第1ホールにて開催しました。

今回は講演を行わず、討議でお互いにコミュニケーションを図る時間を十分に取って、相談しやすい環境を熟成できたのではないかと思います。

運営委員会からは、木村委員から

1. 坂木教育センター所長へのインタビューから
2. 別室登校生の概要について
3. R7年度支援員養成セミナーのご案内

を報告してもらいました。

グループ討議では、4ブロックのメンバーが均等になるように、小学校2グループ、中学校2グループに分かれ、各メンバーが、各校での困りごとや日頃感じておられる課題を持ち寄って情報交換と話し合いがなされました。

各グループの発表では、小学校のグループから、教室に入れない、席に就けない児童の対応、算数の支援の在り方、学校とのコミュニケーションの問題など、中学校のグループから、学校とのコミュニケーション、別室登校生への対応などの意見が出され、学校との信頼関係を高めることの大切さなどの対応策も出されました。多くの参考となる情報が参加者全員で共有することが出来てとても有意義な時間となりました。



新狭山小学校 1年生ひらがな検定

新狭山小コーディネーター 川田みな子

7月18日に新狭山小学校の教頭先生から1年生のひらがな検定への支援依頼のメールが届きました。初めて聞く言葉なので、23日に学校に出向き学年の先生と打ち合わせをしました。先生方のお話によると「1学期のひらがな学習が終わった時点で、筆順がまだ身につけていない子が多く、もう一度基本をしっかり押さえたい」とのお話でした。1日に支援者4~5人は必要と見込み、これまで新小の支援に協力していただいた皆さんを中心にお声掛けをしてスタートしました。

実施期間は9月8日(月)~19日(金)の約2週間で、中休み15分間、学習室を利用しての実施でした。方法は次のような手順です。

- ① 1年生と支援者が机を挟んで1対1で向き合う。
- ② マス目が印刷されたラミネートプリントに児童が書きたい文字をサインペンで書き、筆順や字形が正しく書けていたら「ひらがながんばりカード」の該当する文字に合格印(スタンプ)を押す。

実施してみてなるほど、「も」を「し」の形をまず書いてそこに横棒2本書き足す子や「な」を4画目から

書き始める子など案外いるものだと感じました。また、書き順はできていてもバランスがうまく取れない子も少なからず見られます。漢字学習の際には筆順が大事な要素の一つですが、平仮名の時に筆順を意識して書く習慣が身につけば漢字を書く時にも役に立つかなと思いました。

今回支援デビューされた方が2名おられ、連日にも関わらず「子供たちと触れ合えて楽しかった」と言ってくださったこと、とてもうれしく思いました。

2学期はその後相次いで5・6年生の家庭科(9月10日~10月31日(金)、10月15日~11月7日まで2年生の掛け算九九

検定と日にちがダブっての支援活動が続いております。これはちょっと厳しく、これからの課題としたいと思っております。



教科別研修会・懇親会

人材グループ 有田 茂

教科別研修会・懇談会を元気プラザ大会議室で「学習支援員養成セミナー」との共同で12月15日(月)13:30~16:10にて開催しました。

今年度は「算数・数学」で堀兼小学校戸田校長先生に「小中学校で学ぶ算数・数学の学習内容」と題して講演をして頂きました。

講演は、自己紹介から始まり学校教育目標「まなぶきたえる おもいやる」の説明をされ、その中で「くすのき祭」での取り組み、学ぶ・覚える喜び、バランスの取れた体作り、思いやりを通して人を大切にする心を養い、いじめを予防する取り組みなどの説明がありました。

教育方法が「問題解決型学習」に変わり、課題に対し「見通し」「自力解決」「練上げ」の取り組みになり、SSVCへ「自力解決」の支援を担当先生とよく協議して取り組んでほしいとの要望がありました。

また、SSVCのノートへ「一言」書いていただく支援では「児童がとても喜んでいて」と感謝のお言葉を頂

きました。算数として、九九、 π を覚える楽しみ、覚えることの自信、4桁数字の遊び、数漢字の遊び、パスカルの三角形(2項係数)で数の不思議、「祇園精舎の鐘の声」を通して思い込みの恐ろしさなどを教えて頂きました。参加者からも多くのためになる質問があり、懇談会でも多くの意見と戸田校長先生からの教えに感謝する話が多く出て学びの共有が出来ました。

支援実績

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2023年度	1774時間 小学校8校 中学校7校	296時間 小学校1校 中学校3校	2739時間 小学校11校 中学校6校	1613時間 小学校8校 中学校6校	6421時間 小学校12校 中学校7校
2024年度	1787時間 小学校10校 中学校7校	339時間 小学校4校 中学校3校	3394時間 小学校13校 中学校7校	2154時間 小学校12校 中学校7校	7674時間 小学校14校 中学校8校
2025年度	2377時間 小学校11校 中学校8校	311時間 小学校4校 中学校4校	3962時間 小学校12校 中学校8校		

今年度は昨年度同時期より1000時間以上多く支援を実施しました。小学校では通常授業に加え、体験活動や非対面の丸付け支援も継続。中学校では家庭学習ノートの確認や教室・別室での学習支援、PTAバザーの手芸支援も行いました。